



七十六年前と同様、

雨

0)

降

最高気温二十六

振り返った。

定刻午前十一時にミ

押川壽夫名誉

41

0)

距

信徒や

今年の教区の目標

ゆいまーるの心で あらゆる絆を深めよう!

〒902-0067 那覇市安里3-7-2 カトリック那覇教区本部 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474 発行人 W.F.バーント司教 1部40円 http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2021年7月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第752号 (7月号)

住民を巻き込んだ悲惨な地上戦

で、

住民の四人に

一人が犠牲になった沖縄戦から七十六年。

沖縄での組織的戦闘が終結したとされる六月二十三日沖縄慰霊の日、全ての戦争犠牲者の

世界平和を願い求めるためのミサが今年も教区を挙げてささげられた。

2021 • 6 • 23 沖縄慰霊の日

暴力と愛による平和実

この日、 りしきる中、 サが始まった。 度と例年よりは涼しくなった とも祈りを共にした。 信されて、 続き休止としたが、 を保って集まった。 道者約四十人が互 教の司式で行われ、 大防止のため、

史の繰り そのような人間のおろかな歴 み摂理は人を救いへと導 約聖書にもあるように、 かな戦争を繰り返してきたが、 人類の歴史を振り返ると、 司祭だったコー ミサの説教で押川司 語り、 沖 返しの中でも、 その一つの ベ 米軍の ル 教 神 の おろ 41 は 例 7 旧

人々と心を合わせ祈っ

教区で同時刻にミサをささげ、 和を求める県民とこころひと メイン会場のミサはライブ配 安里教会を主会場とし、各小 つに各小教区で祈りを捧げた。 型コロナウイルス感染 全国の有志の方々 年に引き 追悼と平 の集 和 沖縄(当時の琉球列島) 列島にみ摂理を感じ取り、 たカプチン会の総長は、 シスコ会員) よって戦死した経緯を紹介。 1

たが、 く語り継ぎ、 任を担うことになると語った。 することが、将来に対する青 戦争経験者は少なくなってき する責任を担うことを引用し、 をふり返ること」は将来に対 ピールの際に語った言葉「過去 教皇が訪日の時に広島平和ア 正午になると、ラジオの「沖 沖縄戦を忘れることな の日」特集番組に合わ 加 沖 その実相を直視 は一分間の

:の船上で日本軍の特攻機 ム神父(カプチン・フラン 座間味島

和

祈

サ

平

て

争

の塔での祈り

宣教が始まっていった歴 島に派遣し、 神父とオーバン神父を琉球列 グァムに派遣されていたレイ の責任を担うことを決定して、 チカンの要請に迅速に応えて、 会員の終焉の地となった琉球 この従軍司祭の戦死を知っ 戦後の沖縄の再 の宣教 その 史を バ

また聖ヨハネ・パウロ二世

誰も恨まない 戦争を怨むよ

戦い夕 11 争ん怨みゆさ」(誰も恨まな、イトルは「誰ん恨みらん、 メッセージ 黙とうの後、 戦争を怨むよ)。 ウェイン司

せん。

た理想主義では決してあ

ŋ

ちの歩みは、

実現不可能な誤っ

張って生きよう!

わたした 胸を

かき消す圧力が幾重にもこの用し、「いくら平和を渇望し、 れほど残 のです」という沖縄県平和祈にまみれたものはないと思う ジは、「沖縄戦の実相に触れる 島を襲っています」と続く。 念資料館の展示室の言葉を引 失った大城カメさんの琉歌の て摩文仁周辺の激戦地で夫を 節。バーント司教の ほど残忍で、これほど汚辱 戦争というものはこ メッセー

だれも憎まず、 力 対 愛に貫かれた行動、 し 人 、の歩みは、「徹底 すら不屈 する者をも思 た非暴力と隣人 々の地道な平和 そして沖縄の に訴えず、 過 激 0) 強 敵

チュ

(沖縄

の人々)

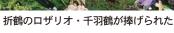
よ !

この言葉は、 は「誰ん恨みらん、一ジが朗読された。 沖縄戦によっ

の平和の常 千 しょう!」 喜びをもってしなやかに、 をかざして舞い唄いながら、 -羽鶴を、クレーバー・ディ・札幌教区民から奉納された ミサの 羽 ザ神父ら数人が従来の 鶴 を、クレーバー・ 後、 道を歩みつづ 私達らしく非 教区の女性 け デ 0) 暴 ま力か 平

塔にささげた。 和巡礼の目的地だった魂 魄

津波古



優しさと愛による平和実現を 決して諦めることなく、 神がさし示した平等と公正、 さらに最後にこう結んだ。 両 手

文責

直く強い竹の意志でしなやか こう呼び掛けた。 さあ、 だとたたえ、 ウチナー の か

Consecrated life, a gift in the church

By: Fr. Maxim D'Souza Oroku Parish

In 1996 The World renowned popularly known as Charismatic Pope John Paul II published a spectacular church document named as Vita Consecrata, in English its translated as Consecrated Life, when this encyclical was published I was doing my first year of philosophy in Bangalore I heard this word first time but then I couldn't understand it, later on reflecting on this theme and listening to various scholars I gradually came to understand the depth of this document. No.3 of this document speaks as Consecrated Life is one of the greatest gifts in the church. It's not only a gift to the church it's a profound gift to the world as well. We cannot imagine a church without the consecrated people. So in this sense it's not only a gift to the present church but also a future church. Its contribution to the world is unspeakable. It is a precious vocation from God to the church.

The following years were dedicated to these people in the church, such as 1987-year of the Laity 1990-Priest and their formation 1994 Consecrated Life 2001 Bishop and his Vocation. All these mentioned vocations are precious in the church, and have their singular roles to play in the church. Everyone is called to be faithful to the Lord in performing their responsibilities. In order to emphasize the greatness of this each vocation and to encourage this vocation I suppose Vita Consecrata encyclical came into existence. These above vocations are given not for oneself but for the growth of the church. This is purely a gift from God and has to be given a positive response to God. St. Paul mentions the gifts of the Holy Spirit. And its purpose is to be with Christ and to walk with Christ. Whatever the mission that has been entrusted to us should be faithfully accomplished before God.

Vita Consecrata No.16 says that the laity being in the world has a major role to play and give witness to God, The God who created this universe finally became man in Jesus Christ so the laity has to witness through their life the Incarnation of Christ in the world. Each one has his own value and purpose in this world so the laity has to witness through their life that everything that God created is good.

The religious people are those, while waiting for the second coming of Christ in glory, He is already but not yet in these times leading the people to that eschatological truth like a Good shepherd and that is the role of the religious people. In addition to it religious people are also a witness to the incarnated Christ who is leading us towards the final day where everyone is looking forward. That is the destiny and goal of a religious person. In the course of history we cannot neglect the flaws, therefore there have been lots of criticisms due to the materialistic values which have crept in the consecrated persons. That is one of the reasons that the vocations to the consecrated life is gradually decreasing. Strong decline in the vocation is a reality, that said the three vows of Poverty, Chastity, and Obedience have their origin in Christ. Jesus is the source and summit of Consecrated life. Because he chose these values therefore consecrated life we cannot imagine something to fade out in the future. Jesus himself instituted Consecrated life as the part of the church. In every individual there is spiritual life, missionary zeal, so we religious have to ask oneself what is my contributions to the church of Japan.

RELATIONSHIP WITH THE LOCAL CHURCHES: innumerable orders or congregations are working in the world. Each society and each region has its own way of thinking and doing things, we as religious people can enrich the church by our charism respecting the events and historicity of the place. Each church or each region has its own spiritual journey we as religious people should respect the historicity and the spiritual journey and if necessary add our charism to enrich the local Church, to add spice to the spiritual journey of the believers. In Okinawa we can paint our own capuchin spirituality keeping with the circumstances. Everything should be done with a great sense of responsibility.

Finally in every order there are martyrs who are ready and willing to die for their commitment. The recent Covid 19 has shown to us. As long as there are martyrs in our orders the consecrated life in the church will not die out. Where no one wants to go the consecrated people prefer to go so this is a positive attitude we have the confidence it will be very well accepted in any parts of the world. The list can go on and on. What's necessary is being grateful for whatever happening around us and for this consecrated life which calls each one to serve vigorously in the church besides Holy Spirit will always guide us. The future is not in our hands it's in God's hands. Let us pray to the Holy Spirit for the discernment so that we focus at the right place to walk with Christ and to be with Christ in our life of Consecration.

るでしょうか?



ヨアキム・ホアイ神父 主任司祭 石川教会

が肉となった」

で始

造の日の前の「言葉 ネ福音書は、天地創 まっています。ヨハ アに現れたことで始 ヨハネの父、ザカリ ガブリエルが洗礼者 力福音者は、大天使

まっています。 けれ

教会は毎年聖ヨアキムと聖ア

書の中にどのように表されてい でしょうか。聖書や教会の記録 活についてどれほど知っている れども、私達はお二人とその生 として崇め尊敬しています。け 達はお二人を聖母マリアの両親 ンナの祝日をお祝いします。私

福音書は洗礼者ヨハネがキリス ・の洗礼の準備をすることから 福音書を読みますと、マルコ

> ども、 した。 あるいは 「いつくしみ」を意味 信者たちは、クリスチャンとし するアンナでした。 は、ギリシャ語で「あわれみ」 夫の名前はヨアキム、妻の名前 と妻から始まる伝統的な話です。 ての生活の始まりを知っていま それは、普通の家族、夫 初期のキリスト教社会の

た。二人は、私達の家族のように わった夫婦ではありませんでし ヨアキムとアンナは特別に変

始まっています。ル トの降誕の出来事で ス様の系図とキリス イエ という問題も抱えていました。 幸せで愛に満ちた生活を営んでい ました。二人には、子供がいない

ました。

聖霊の力に満ち

聖母マ れに

始まっています。

タイ福音書は、

供がいないことは、不幸なこと 家庭生活で神の祝福だと言われ れていました。出産することは であり、不名誉なことだと思わ その頃の考え方としては、

聖ヨアキムと聖アンナと幼い聖

貧しい人たちのために使ってい 祝福されていると思われていま ついて語っています。二人は した。二人はその財産を教会と 裕福であり寛容であったので ムと聖アンナの強い信仰と愛に ていました。 教会は、伝統的に、 聖ヨアキ

が生まれたのです。その女の子 ら養育に当たりました。 をマリアと名付けました。マリ が起こりました。可愛い女の子 を生んだだけでなく、 アは、普通の家庭で育ちました。 い大人に成長するよう願いなが ヨアキムとアンナは、 うより人類にとって奇跡 素晴らし マリア

そのほかに、二人は、 たが、すべて事足りていました。 二人には、子供はいませんでし のため、残りの三分の一を自分 ため、三分の一を貧しい人たち たちのために充てていたのです 富の三分の一を神殿や司祭の 摂理を心から信じていま 神様の御 リアから救い主がお生ま 実を結ぶことはなく、また、悪 悪い実を結ぶ。良い木が、悪い は、良い実を結び、 十七-十八節に「すべて良い木 なったのです。 た救いの計画によって、

聖マタイは、

福

音書の七

悪い木は、

た。 主を心から信じていまし 活で聖ヨアキムに従い 殿で働き、子供を授けて した。聖ヨアキムは、 た。聖アンナも、 下さるよう祈っていまし 結婚生 神

には、

愛と献身と忍耐と祈りに

知っている神の母であるマリア ない」と書いています。私達が い木が良い実を結ぶこともでき

満ちた両親がおられたのです。

の祈りはかなえられると 望を持って待てば、二人 と思い喜びに満たされま お告げになりました。二 天使を通して、 人は、子供が授かるのだ 失望しかけた時、神は、 信仰と希

そして、二人に、と言

易ではありません。 ンとしての信仰を育むことは容 配ることがなければ、クリスチャ 達の家族や周りの人を愛し心を 門を開いてくださいました。私 神様は、 私達のために、天の

見本となっています。 めに、キリスト者の家庭の良い ご両親とマリアは、 私達のた

たちや孫たちと幸せにお過ごし いつも健康で、 コロナ禍の中、 謝いたしましょう。特に、この 私達に与えて下さった神様に感 スト者の家族の信仰のモデルを になれるよう、 ナの祝日をお祝いします。キリ アの両親、聖ヨアキムと聖アン 今月の二十六日、私達はマリ 仲睦まじく子供 お祈りいたしま 高齢の方々が、

2021年6月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2021年6月1日(火) 10:00~12:30 様々な状況に対応していくため初の ZOOM会議。

1. 報告及び連絡事項: 司会・クレーバー神父。

- ・前回(5月会議)の議事録の確認-新田。
- ・5月22~23日、ウェイン司教の宮古島平良教会公式訪問が予定されていたが、沖縄県の非常事態宣言を受け、10月 に延期したことが報告された。受け入れ準備を進められていた藤澤神父への感謝と共に、延期となったことへのお詫 びが司教から述べられた。
- ・マーシーさんから非常事態宣言を受け、司教訪問の日程が変更となる小教区への聞き取りが行われた。6月13日(日) 予定だった泡瀬は持ち帰って役員会で検討するとの事で延期となり、6月27日(日)予定の普天間教会訪問は変更無いことが確認された。7月の予定は決まっていない。
- ・6月20日(日)~22日(火) にかけて、長崎教区の司祭たちのための黙想会が、ZOOMを活用して、ウェイン司教の指導で行われるため、この期間、司教は不在時と同じ扱いであることが報告された。
- ・カリタス那覇の活動報告が担当のマーシーさんから行われた。小教区から寄せられる食料品の寄付については賞味期限の長いものや、保存の効くものをお願いしたいこと、金銭等の寄付はお米など保存性の高いものを買って提供できるようにしていること等が報告された。ウェイン司教からは、慌てることなく、地道に取組みを進めていくよう激励があった。
- ・6.23沖縄慰霊の日について報告が行われた。各主任司祭に当日の平和祈願追悼ミサ典文が配られ、午前11時、同時刻にミサを始め、12時に沖縄県の追悼式典で行われる黙祷に合わせて各教会でも黙祷を捧げて閉式とするようウェイン司教から要請が行われた。当日のミサ典礼には共同祈願等も載せられているので、各小教区で信徒の分も印刷して配るよう要請された。続いて、当日読み上げられる司教メッセージを津波古事務局長が朗読して司祭たちに分ち合った。なお、平和巡礼は行われないので、他教区からの参加希望者には来県を遠慮していただく方針であることも司祭たちに伝えられた。また、押川名誉司教から、大変良いメッセージであるとのお言葉が伝えられた。
- その他

コロナ禍以外にも、沖縄に住む400人余りのミャンマーの方たちのため、祈りと共に必要な支援と平和回復のための協力が呼びかけられた。

2. 審議事項

- ・コロナ感染防止対策について、ウェイン司教から出された文書を津波古事務局長が朗読し、司教からは防止対策の遵 守が求められた。引き続き質疑応答が行われ、個別の状況に照らして、司教から指針が示された。
- ・サマーキャンプについては、日帰りのピクニック案が担当のヨアキム神父から提出されていたが、非常事態宣言後の 状況を踏まえて、引き続き討議していくこととなった。
- ・2021年10月17日(日)、全世界の各教区でシノドスが開始されるよう教皇様から呼びかけられた。これは、シノドス(世界代表司教会議)の全過程を改定し、神の民全体から広く意見を聴くためであり、その詳細は今後司教協議会で検討され、後日報告されることが伝えられた。その日は安里教会を会場に、シノドス開幕ミサが予定される。それに伴い、当日司教訪問の予定になっている小教区には、日程を変更するよう指示が行われた。
- ・司祭、助祭の研修会については、緊急事態宣言下にあることを鑑み、来月以降に持ち越しとなることが報告された。
- ・津波古事務局長から、各小教区から提出された会計報告に基づいて報告が行われた。コロナ禍の影響もあり、全体的 に収入は減っているので、それぞれの小教区で支出を見直して、節約するよう呼びかけられた。また、納骨堂やお墓 を保有する小教区では、できるだけ会計を同一にしないで、分けて報告するよう注意が促された。
- その他
- ・ダルクが正式に6月1日から宮古島の修道院跡の土地建物を使用することがウェイン司教より報告された。教区との使用貸借契約で、5年間の使用となり、その後についてはその時点で再度協議の上決められる。それまで当所を使用してきたシスター達は保良教会へ移動して活動を始めておられ、主任司祭の藤澤神父からも報告と感謝が述べられた。
- ・ZOOMによる会議がいつでも開けるようにすることはコロナ禍に限らず、今後の非常事態への備えとしても意義深い ことなので、大いに活用することによって全体のスキルアップを図りたい。今後はスマホなどのモバイル端末を使っ ての会議参加などにも取り組んでいきたい。
- ・次回司祭助祭拡大会議は2021年7月6日(火) 午前10時から12時、安里教区センターで開催されることが報告された。 2021年6月9日 承認: ウェイン・フランシス・バーント司教 記録: 新田 選

コロナで多くの人が心の準備や家

なったのである。というたのである。というたのである。というない程にパニック状態に強いが、世界中が他国の事を考える強いが、世界中が他国の事を考える強いが、世界中が他国の事を考えるがとのお別れもままならぬうちに死

教会でミサができなくなるのは大きな自然災害か戦争かと思うが、まさにウィルス戦争がおこっているかの様である。ふと気がついて周りを見回すと、まだ父なる神を知らず、福音を伝えていない多くの人がいた。

迎えが来る頃になると、ある日枕を 母の死を迎える前の姿が思い出され あったのだろうか? る神ではなく神々と言われるもので が近くなると、信じていたのは父な ところ、つまり神のもとである。島 様である。ムトゥ(元)とは造り主の 行きたいが道がわからん」と言った 何をしてる?」と聞いたら「ムトゥに もって家のまわりをウロウロしてい ている内容があり祈っていると、祖 父なる神への祈りの中でも私の祈っ こちの家の為に祈り、神を信じてい でツカサウマ(神ンチュ) としてあち たので、当時中学生の孫が「おばあ! け入れ救われるようにと祈り出した たはずの祖母がいよいよ天に帰る日 その方々が生きている間に神を受 祖母が九十歳を過ぎていよいよ

さい。(今日もふつかたーあらしふー 【父が祖母を毛布にくるんで、姉に支がら、今日も日ごとの糧を与えて下 をみていた。神・守護の天使)に早朝茶とうしな そばにいたが、姉はウトウトして夢日頃の祖母の祈りはマウガン(守り 全てを終えた。その夜は姉と交代で

さったと思う。 がっていたので主は祈りに応えて下仕事に行く前に十分でも時間を作りがた祖母は幸せだった。姉と私はさまち)天国への道が他にあると気

ある日私の夢に祖母が助けを求め ある日私の夢に祖母が助けを求め ある日私の夢に祖母は手を伸ばして「私の 小屋にいる祖母は手を伸ばして「私の 所に早く来て!」と人に呼ばせた。 所に早く来て!」と人に呼ばせた。 がらね」と言っていた。 早速母に電話して「祖母は長くないかもしれ と言っていた。 早速母 に電話して「祖母は手を伸ばして「私の ある日私の夢に祖母が助けを求め ある日私の夢に祖母が助けを求め

私がキリストを信じるようになったのは、かくれキリシタンの様な母の讃美歌を歌う声を聞いていたのでの讃美歌を歌う声を聞いていたのでがある。ある時に故マルティン神父である。ある時に故マルティン神父様が島に見える事を聞いてかけつけ、私は「キリストの勉強中です」と伝え私は「キリストの勉強中です」と伝えたことがきっかけで時々教会に行くたことができた。

たて軸よこ軸

《天国への道を探す祖母》

安里教会 平良 弘子

国に行ける様に!」と頼んだ。それからまもなく連絡がきて、「何も食べからまもなく連絡がきて、「何も食べいたが、すぐに姉と実家に帰った。おむれ、すぐに姉と実家に帰った。おい・おばも周りを囲んで今日か明日かと気をもんでいたが、姉と祈ると「はあーぷー」と言って帰ったが、そくれるネ!」と言って帰ったが、そくれるネ!」と言って帰ったが、そくれるネ!」と言って帰ったが、をさてを終えた。その夜は姉と交代でくれるネ!」と言って帰ったが、かと気をもんでいたが、姉はウトウトして夢をみていたが、姉はウトウトして夢をみていた。

に合った。 にろれて浜まで送ってもらい船に間に入れて浜まで送って。大きな背中にしに乗せてもらった。大きな背中にし

宮古の教会ができる前、当時の石神神父様(後に司教)の話を聞きに行った時、御絵のイエス様だとしばらくで、この方がイエス様だとしばらく思っていた。高校に合格した時は「これからはいつでも教会にいける」とれがらはいつでも教会にいける」とで、まで、はしゃいだものである。入学喜び、はしゃいだものである。入学さな声で歌うシスターにあこがれてきな声で歌うシスターにあこがれてきな声で歌うシスターにあこがれてきな声で歌うシスターにあこがれ

わせてくださった神に感謝です。きなシスター方、次呂久先生に出会た!イエス様の様な神父様方やすてて休まずに真面目に通い受洗でき

入信のきっかけを示してくれた母

一緒に来た母は教会に行きたいと言って、開南教会のアンナ会に行く言って、開南教会のアンナ会に行く言って、開南教会のアンナ会に行くまうになり「宮古に帰る前に洗礼をお時の有馬神父様は、愛深い眼差しと時の有馬神父様は、愛深い眼差しと時の有馬神父様は、愛深い眼差しと時の有馬神父様は、愛深い眼差しと時の有馬神父様は、母をそのまさ」と了解し、アンナ会の集いのます」と了解し、アンナ会の集いのます」と了解し、アンナ会の集いのます」と言っている場合ではない事から」と言っている場合ではない事から」と言っている場合ではない事から」と言っている場合ではない事から」と言ってと思う。母を慈しみ、をご存知だったと思う。母を慈しみ、をご存知だったと思う。母を慈しみ、

父は緊急だったので私が洗礼を受けたが、天国への道を探せたかな?母も父の百日を待っていたかのように、こたつでロザリオを祈のなうに、こたつでロザリオを祈での葬儀ではお坊さんを呼ぶのがざの葬儀ではお坊さんを呼ぶのが当たり前の風習の為、教会式での当たり前の風習の為、教会式での者儀は親戚や家族の一部にも「人と変わった事をして恥ずかしい」と反対された。

切に扱って、祈り、歌まで歌って送 ださり、司祭やシスターや信徒が聖 垣間見させたのではないかと思った。 るのか~!」と、母をうらやましが や話を聞いた参列者はとても感動し かれ、祭服を着た司祭や、三人の侍 歌集をもって、船に乗って来て下さっ 言っていたので母の遺言として了解 サに参列した母は感動して息子の 福音を聞かせ、ミサによって天国を るほどだった。母は死んで島の人に ていた。「教会はこんなにも死者を大 者服姿の孫達を見たりミサ中の祈り た。手作りの祭壇にミサの祭具が置 に「自分も教会でやって欲しい」と した。宮古教会も快く引き受けてく しかし本島滞在中に教会の葬儀ミ 祈りの手帳より抜粋して祈

「恵み豊かな神よ。福音に出会う恵み「恵み豊かな神よ。福音に出会う恵みを背負う人々と共に、キリストからちい、東えられた喜びと希望を分かち合い、あなたに向かって迷わずに歩んで行めなたに向かって迷わずに歩んで行

母は父の見守りを兼ねて、

持病の治療

力して下さったアンナ会の皆様には

馬神父様や、快く受け入れ祈って協

心から深く感謝しています。 安心した

母の信仰を信じて認めて下さった有

早くに父が亡くなり島へ帰った。

のために入院していたが、思ったより

逢いに来た

空を突くよな

大鳥居

この幼少の私は何に

「世の不穏な

声

思うこと 「九段の母」を聞いて

真栄原教会 宮良安郁

曲:能代八郎、 島倉千代子 『九段の母』 作詞:石松秋二、作 上野駅から 歌:二葉百合子、 九段まで 一日がかり じれったさ

母は泣けます。嬉しさに神と祀られ、勿体なさよ 両手合わせて 拝む弾みの 御念仏 跪ぎまず

倅 赦せよ 田舎者 場れ いなかもの はつと気づいて 狼狽えました (以下省略)

祈ると言う理解に辿り着いたから

で当時私は十歳であった。ラジオ から十五年経過した一九六〇年頃 がこの歌を初めて聞いたのは終戦 ·勃発二年前に作られた歌で、私 この歌は一九三九年、 太平洋戦

> 0 ら六十年経った今もそ 健気さにです。あれか その子に逢い来た母の 死した息子の哀れさと ぐんだのか、それは戦 惹かれたのか、なぜ涙 歌を聞くと涙を禁じ

得ない。 にしている筈だと思った。 この母の許に舞い降りて嬉しそう から逢いに来たので、あの世から あれから時が経ち、大学に入っ 当時十歳の私はこの歌を聞 亡くなった子は母が遠い田舎

を翻弄された母子の物語としての であることを知った。戦争に人生 この歌がいわゆる軍国歌謡の一つ て歴史・憲法・宗教などを学び、 が解である。

戦死し神となった亡き息子の魂に 家神道の神として祀るところで、 国家の為に命を亡くした人の魂を国 即ち明治天皇によって建てられ、 めた。何故ならここは靖国神社、 えようとし、はっと我に返って止 に手を合わせ、自然に御念仏を唱 れは、母は祈ろうといつものよう 三番の歌詞が意味するもの、

狼狽え、 椊 赦せと言い、そんなってが、 ないますが、 といい、 これでは、 これ いと謝ったのである。 自分が田舎者だからでごめんなさ 過ちをしそうになったのは一重に である。だから思わず仏教の念仏

も望外の喜びと受け取っている。 とは息子にとっても自分にとって この母は息子が神と祀られるこ

ぐんでいたことを覚えている。 じっと聞き入ったこと、その時涙 から流れるこの歌に子供ながらに

> す神が見捨てることはあるまい。 りとなる。だがその母を天にいま か。キリスト教の見解ではその通 る大罪の偶像崇拝に当たるだろう 手を合わせ礼拝することはいわゆ と恐縮しているのである。 は 請国神社に来て、 ところで、この母が息子に会い 祭壇の前で

れている。 も話すことはできない状態に置か 息子は死んでしまっているので何 彼女の行動は責められない。一方 を知らずに生きて来たのであれば れた経験がなく、キリストの教え 故ならその母はこれまで福音に触 け入れてくださると私は思う。 むしろその健気な母をきっと受 何

神々の一員にさせて頂き身に余る このような母と子を二度と繰り返 けない。そのことを厳粛に自覚し、 す世であってはならず、してはい になってからは時代に翻弄された の時の涙と大人になってからの涙 なった子の無念さに涙した。大人 の時は単純に母親の健気さ、亡く は同じ涙でも意味が異なる。 母」を聞いて私が流した涙、少年 島倉千代子の歌うこの

ちを繰り返すことのないよう「不 行く。この歴史から学び、同じ過ちが先導し、全国民を巻き込んで 戦の誓い」を噛みしめ、 日頃から

聞かせる「決意の涙」である。 この世に生を受けた者として責任 ある行動をせよと自分自身に言 戦争は権力側にいる一部の人た 「九段 少年 警戒を怠らず、 に敏感でないといけない

ている。 を呼び起こす歌」として受け止 この「九段の母」を「非戦の決意 そして、ヨハネ・パウロ二世の言 であり、命である。私を通らなけ び行動するか問われていて、私は 私たちはこれらの言葉からどう学 葉に「戦争は人間の仕業」がある。 きない」(ヨハネ十四・6)とある。 れば、誰も父の許へ行くことがで イ五・9)、「私は道であり、 たちは神の子と呼ばれる」(マタ 現する人々は幸いである。その人 エジプト記二十・3)、「平和を実 て他に神があってはならない」(出 聖書に「あなたには、私をお 真理

教皇フランシスコのことば

私たちの人生の隅々を明るく 照らし、復活の勝利から始まる

歴史を理解できるよう助けてく れる復活した主の美しさを観想 するために、私たちも山へ登らなければなりません。 しかし、登ったことに満足し、山頂にいつまでも留 まってはなりません。イエスご自身が私たちを谷へ と、兄弟姉妹のもとへと、日常生活へと連れ戻して くださいます。霊的に怠惰にならないように気をつ けなければなりません。私たちは祈り、典礼にあず かっているから大丈夫だなどと、決して思ってはな りません。山に登ることは、現実を忘れることでは ありません。祈ることは、人生における労苦を避け ることではありません。信仰の光は、優美な霊的な 感覚を与えるものではありません。イエスのメッセー ジはそのようなものではありません。私たちがキリ ストと出会うという体験をするよう招かれているの は、キリストの光に照らされたわたしたちが、今度 はその明かりをあらゆるところに運び、輝かせるた めなのです。人々の心に小さな炎を灯すこと、ほの かな愛と希望を灯す福音の小さなランプになること、 それこそがキリスト者の使命です。

伊田 忠司 さんを偲ぶ

開南教会 上間良彰



開南教会男性の会の仲間であるアシジのフランシスコ伊田忠司さんが去る4月9日、主 に召されて天国へと旅立って逝きました。

以前、主任司祭のフランシス神父から、教会施設の維持管理に当ってくれと、伊田さん、渡名喜守定さん、平山良武さん、そして私、上間の4人が営繕係りとして委任され、これまでに聖堂正面玄関の階段タイルの張替え、1階ホールの床のタイル工事と舞台床板の張替え、具志頭教会の床の漏水防止工事、浦添のフィアット修道院の天井や柱のセメント工事と、業者に委託したら1千万円を越すほどの補修を施してきました。

伊田さんは専門の電気をはじめ、水道、木工、セメント、タイル工事と、プロ並みの技量を発揮して私たちに教えてくれました。また、植物、植栽にも造詣が深く、聖堂に飾る高価な胡蝶蘭や鉢植え等を幾度となく寄付してくださいました。遠くベトナムから布教のために来た多くの司祭、シスター達へも心を配り、物心両面からの援助を惜しみませんで

した。私は伊田さんの弟の武司君と那覇高の同期生で、伊田さんを実兄のように思い接してきました。住いもお互い教会に近いこともあり、私と伊田さんは毎日と言うほど2人で教会に出てきては奉仕作業を続けてきました。

今年の始め頃、渡名喜さんと3人で昼食を食べに行った時に、「胃が受け付けない」と言って、全く食事を口にされなかったので心配していたところ、その後すぐに入院されたと聞きました。心配しつつもご迷惑をかけてはいけないと思い、お見舞いに行かなかったことを後悔しています。

伊田さん、長い間お世話になりました。これからは主の御許でゆっくりとお休みになってください。 最後に私が趣味で作っている短歌をお捧げしてお別れの辞といたします。

毎日を言葉交わして会いし人 神に召されて遠く旅立つ この世では2度と会えぬと言う掟 逢えぬ不思議に思い悩めり 四十九の日時も過ぎて今も尚 思いに更けて夜明けとなりぬ

教皇庁典礼秘跡省は2021年1月25日付の「教令」をもって、以下の教会博士の任意の記念日を 一般ローマ暦に加えることを発表しました。

2月27日 聖グレゴリオ (ナレク) 修道院長教会博士 5月10日 聖ヨハネ (アビラ) 司祭教会博士

9月17日 聖ヒルデガルト (ビンゲン) おとめ教会博士

それぞれの記念日に固有の聖書朗読等は以下のとおりです。 ミサの集会祈願は『ミサ典礼書』補遺を参照してください。

■聖マルタの記念日の名称変更について

教皇庁典礼秘跡省は2021年1月26日付の「教令」をもって、7月29日の聖マルタの記念日の名称を「聖マルタ、聖マリア、聖ラザロ」に変更することを発表しました。

ベタニアでイエスをもてなしたマルタ、マリア、ラザロについて、ローマ暦にはマルタの名前のみが記載されてきましたが、改訂された「ローマ殉教録」にはマリアとラザロの名前も記載されており、いくつかの特殊暦ではすでに三人の兄弟姉妹が祝われています。

これらをふまえ、典礼秘跡省は記念日の名称変更を教皇フランシスコに提案し、教皇は、三人が主イエスを家に迎え、そのことばに注意深く聞き入り、イエスが復活でありいのちであることを信じたという福音書の重要な証言を考慮して、7月29日に三人の名前を記載することを決定しました。

これにともない、ミサの公式祈願の一部が修正されたので以下の『ミサ典礼書』補遺を参照してください。

なお、ミサの聖書朗読等に変更はありません。

2月27日 聖グレゴリオ(ナレク)修道院長教会博士

第1朗読	知恵 7•7-10, 15-16
答唱詩編	『典礼聖歌』 166①③(詩編 37·3, 5a+6b)
アレルヤ唱	年間に『典礼聖歌』269③、四旬節に 『典礼聖歌』263①(ヨハネ6·63c+68c)
福音朗読	マタイ 7・21-29

5月10日 聖ヨハネ(アビラ)司祭教会博士

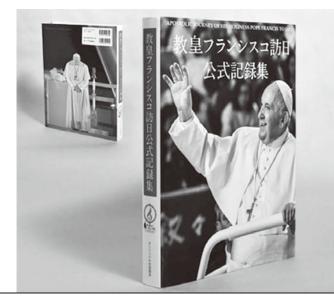
第1朗読	使徒言行録 13・46-49
答唱詩編	『典礼聖歌』 123①②(詩編 23・2+3, 4)
アレルヤ唱	「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。 人々があなたがたのよい行いを見て天の父を あがめるように」(復活節の旋律)(マタイ 5・16)
福音朗読	マタイ 5・13-19

9月17日 聖ヒルデガルト(ビンゲン)おとめ教会博士

第1朗読	雅歌 8•6-7
答唱詩編	『典礼聖歌』36④⑤(詩編 45・11+12, 17+18)
アレルヤ唱	「心の清い人は幸い。その人は神を見る」 (年間の旋律)(マタイ 5·8)
福音朗読	マタイ 25・1-13

『教皇フランシスコ訪日公式記録集』 2021年6月5日発売

2019年11月に実現した教皇フランシスコの訪日。興奮と感動と喜びに包まれた4日間を詳細に伝える唯一の公式記録集。貴重な写真500点以上とともに、講話のテキストもすべて収録。また、訪日決定に至るまでの経過や、各行事、各典礼の規模や人員などのデータも詳細に伝える。



著 者・カトリック中央協議会出版部(編)発売中 発行日・2021年6月10日

判 型・A4変型 ページ数 280 P

価 格·本体価格 4500円 (税込4950円)

ISBN 978-4-87750-230-0

当出版部へご注文

電話 (03)5632-4429 FAX (03)5632-4456

この二二年六月二十七日帰天 マルタ 屋比久 幸子 様 マルタ 屋比久 幸子 様

享年八十

享年九十三歳

「ゆいまーるBOX」へご協力ください。

カトリック文化センターにもゆいまーるBOXが設置されています。これは寄付物品の募集と同時に、皆さんの友人、知人等身近な方で支援を必要としている方々への直接配布のための場でもありますので、各小教区では支給品を受け取りにくい方々のためなどにもどうぞご利用下さい。毎週月曜日と木曜日の午後2時から4時までの時間帯で配布しています。



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:**098-937-5001** 住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日~金曜日(申込、相談など)

·営業時間 8:30~17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



私たちは故人とご遺族の意向 を最優先に考えます。何でもご 相談下さい。

那覇市首里烏掘町4-57-3 TEL&FAX:098-885-8205 http://w1.nirai.ne.jp/yasurai E-mail:yasurai@nirai.ne.jp 「やすらい企画」

24時間 受付 ~ご遺族の心をもって奉仕する~

そうてんしゃ

葬 典 社

- *創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。 「ゆうなの会」会員募集中です。

24時間 受付

(実務担当) 比嘉 高茂



てんごく ☎098-**853-1059**